

5月1日　　メーデー

メーデーといえば、今では労働者の日として働く人たちが一致団結して権利を要求する日として知られています。そもそも、5月1日は夏の訪れを祝う祭がヨーロッパの各地で催されていました。

夏の訪れを祝う祭りメーデーとは、どんなお祭りだったのでしょうか。

ヨーロッパでは農作物は、乙女や女王の姿をした精霊によって育つと考えられていました。その精霊をお祭りするのがメーデーだったようです。しかし、1神教のキリスト教はそれを赦しませんでした。夏の訪れを喜んで乱痴気騒ぎをする祭りを禁じました。魔女の集会として、忌むべきもの、仕事をしてはいけない日としたのです。今でも、北ヨーロッパ各地では魔女、悪霊よけのために、前日に火を焚いたり、家、家畜小屋、畑に十字架をかいたり、メイ・ポール(Maypole 五月柱)を立てて、そのまわりで踊ったり、遊戯や競技を催して楽しんだりするところがあるようです。

冬が長く厳しく、また夏の短い北ヨーロッパでは、待ちに待った夏の到来を大喜びするのが、理解できるようです。

5月2日　　1948年夏時刻法に基づき、日本で初めてのサマータイム（夏時間）が実施されました。

サマータイムとは、日照時間の長い夏の間、時計を1時間進めた時間帯（リズム）で生活することです。

この制度は、その後4年実施され1952年実施前に廃止されました。GHQが自国の制度をそのまま日本に導入したものとされており、占領が終わると同時に、この制度も廃止になりました。

廃止になった理由の最たるものは、農業、漁業者の反対だったようです。時計より太陽の動きに合わせて暮らす人に混乱が生じたと言うのです。時計を1時間進めるのだから、時計を見ながら暮らす人に混乱が生じるのかと思いましたが、そうではないようです。

サマータムを経験したことがないので、想像力を豊かにして考えれば、サマータイムになったその日は、時計を見ながら暮らす人は混乱しますが、後は、時計のとおり生活するのだから問題ないのですね。

太陽がどの位置にあろうが、時計が8時になればNHKの連ドラが始まり、12時になればお昼休みになります。5時半には仕事が終わる、夜の9時にはニュースが始まります。

ところが、太陽の動きで生活する人は、いつもの感覚で午前中の仕事を終え、お昼を食べようと思うと、すでに時計は1時、再放送の連ドラは終わっているのですね～～。そりゃ、混乱しますよね？！

連ドラが見られないから、制度が廃止されたわけではありませんが、当時の日本人には合わなかったようです。東北大震災後、節電のためにサマータイムを自主的に実施した企業もあったようですが、成果はあまりなかったと聞きます。

時間に厳重な几帳面な国民性からか、体内時計が狂って睡眠不足になったりサービス残業が増えたりと弊害が指摘されました。暑い夏は夜寝苦しくて、そうでなくても寝不足ですから・・・。

ところで私事ですが、今日は娘の誕生日です。

賞子、お誕生日おめでとう。

いろいろあって、今はチマチマ饅頭を焼いていますが、子供たちの存在は大きな力になっています。ありがとう。何も残してやれないかもしれませんが、いつも前向きでがむしゃらに進んでいく姿は、君たちに見ていて欲しいです。

もうみんな自立したから今更「育つ」もないけれども、あきらめずに前進する親父の背中を見て何か感じ取ってください。このままでは終われないので、親父もまだまだ頑張りますよ！

そして「ブラウンが好き」って言うてくださるお客様にも感謝しながら

5月3日 憲法記念日

日本における憲法の施行は、皆さんの方が詳しいでしょう。ここではポーランドの憲法記念日について調べてみました。

日本と同じ5月3日が憲法記念日なのですね。

1791年、アメリカについて世界で2番目、ヨーロッパでは初の近代的成文憲法である憲法が成立しました。実際に効力があつたのは、わずか1年でしたが、現在ポーランドではこの憲法を記念して5月3日を祝日としています。そのぐらい、国民に支持され誇り高い憲法でした。

「三権分立」の原則と「法の支配」が明示されており、国王には立法権を持たず、実際の行政は内閣が行う完成度の高い民主憲法でした。ポーランドは分割や占領などで激しく国内情勢が変わってきました。民主主義によるポーランドの主権回復をめざす人々の指針となったのだそうです。

この憲法は、今でも世界中から民族や社会階級によらない真の民主主義精神をもち、全人類の歴史において最も優れたものとみなされています。

ポーランドと言えばキュリー夫人の国、東欧で社会主義だった国という程度でしか知りませんでした。なんだか素敵な国のように感じました。穏やかで優しく、辛抱強く、賢い国民性なのとか。家族を大切にするとところは、国を大切にすることに結びつくでしょう。

もっと知りたいと思いました、ポーランドのこと。

憲法を改正することは世界的には珍しくないのだそうです。日本でも憲法改正が議論されています。時代とともに変えるべき内容といつの時代も変わらない内容があります。よく見極めて、間違っただ道に進むことのないように、国民もよく考えなくてはならないと思います。

5月4日 1852年アリス・プレザンス・リデルがうまれました。

『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』の主人公のモデルと言われている女性です。

アリスの父親がオックスフォード大学クライストチャーチの学寮長であったことと、ルイス・キャロル（本名チャールズ・ラトウィッジ・ドジソン）がクライストチャーチの数学講師であったことで、二人に接点がありました。

ルイス・キャロルはアリスをかわいがり、しばしばお話を聞かせたりピクニックにでかけたりしたようです。少女にコスプレをさせて、写真の撮影をするのが好きだったと言われるルイス・キャロルは、アリスのコスプレ写真も撮っています。

『不思議の国のアリス』は、即興で作って聞かせた話をアリスが喜び、書き留めて置くように頼んだものを、キャロルがクリスマスプレゼントに手書きの本にしたものが、元になっているそうです。

続編『鏡の国のアリス』も、キャロルとアリスと経験したさまざまな出来事が元になっていて、巻末にはアリスの名前を織り込んだ詩が書かれています。

『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』は、とても面白いお話ではありますが、唐突なエピソードが出てくるなあと感じていました。なるほど、話を聞かせているアリスが喜んだ話や二人だけの体験が元になっているとしたら、私たちには唐突と感じるかもしれません。

キャロルが、「かばん語」と呼ばれる造語を考え出し、ほかにも、変わった手法でお話を書いているのは、アリスの反応を見ながら彼女の知能や成長に合わせていたからに違いありません。

アリス自身は、上流社会のごく一般的な女性でした。上流階級にふさわしい知性と教養を身につけた人でしたが、ルイス・キャロルから聞いたお話は、彼女の子供時代をいっそう豊かなものにしたことでしょう。

5月5日 こどもの日

こどもの日は男の子の健やかな成長を祝う端午の節句から、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」という趣旨の国民の祝日です。

ちょうど、この時期は天候もよく大型連休の1日でイベントにも旅行にも、家庭サービスにもぴったりでですね。

ところで中国由来の端午の節句ですが、チマキや柏餅を食べるとか菖蒲湯につかるとか、こいのぼりをあげたり五月人形を飾ったり、いろいろな風習があるようです。ところが旧暦の5月5日は現在のような立夏の頃でなく、梅雨のさなか夏至の頃の行事でした。

青空で気持ちよく泳ぐこいのぼりも、江戸時代には雨の中、軒につるしておくものだったとか。まさしく鯉の滝登りなのです。

夏至の頃と言えば、蒸し暑く体調もくずしがち。そんなときに菖蒲湯に入って体を清め、チマキや柏餅を食べて体力をつけたというのも、理にかなったことかもしれません。

男の子の節句と言っても、江戸時代には庶民というより武士やお金持ちの商人のお祝いでしたから武者人形を飾ったり加藤清正のトラ退治にちなんだ張子の虎を飾ったりしたのも納得ですね。あやかるなら武将より学者ということで学問の神様、菅原道真のお人形や掛け軸を端午の節句に飾るところもあるのだとか。

今ならサッカー選手や野球選手の掛け軸（ポスター）なんかもいいかも・・・！？

5月6日 1889年パリ万国博覧会が開幕し、321mのエッフェル塔が公開されました。

この博覧会は、フランス革命から100年目に開催されたもので、パリで開催された4回目の国際博覧会です。この博覧会最大のシンボルとなったエッフェル塔は博覧会の入場ゲートとして使われました。

構造材の鋼鉄はフランス国内で生産されたものを使い、工事期間は2年2か月当時としては大変短いものでしたが、事故死した人がいなかったことでもよく知られています。

展望台は3つあり、高さは57.6m、115.7m、276.1m、第2展望台までは階段でも昇ることができるそうです。水圧エレベーターなど当時の基本構造は今でも現役で稼働しています。

名前は設計と建設を請け負ったギュスターヴ・エッフェルから採っています。近代的な博覧会にふさわしい特徴と金属産業の独創的傑作を備えたデザインということで採用されたものでしたが、あまりにも奇抜な建造物であったために建設当時は賛否両論に分かれたと言います。

文学者のモーパッサンはエッフェル塔1階のレストランによく通っていたそうですが、その理由として「ここがパリの中で、いまましいエッフェル塔を見なく てすむ唯一の場所だから」と言っています。ここから、「エッフェル塔の嫌いなやつは、エッフェル塔に行け」ということわざも生まれたのだとか。

万博後20年保管して解体する予定でしたが軍事上の無線通信を送るために使われていたので解体することなく、今に至っています。1991年この塔を含むパリのセーヌ川周辺は世界遺産として登録されました。

狭いところに高い塔を建てたスカイツリーの形も面白いけれど、すその長いどっしりとしたエッフェル塔の形は、本当に美しいです。東京タワーともちょっと違う。

建設当時は、非常に近代的で街並みと違和感があったのですが、100年以上経つとエッフェル塔もクラシックな感じで、洗練されたパリを象徴する建造物となっていますね。

5月7日 1946年井深大と盛田昭夫らによって東京通信工業が設立されました。

東京通信工業では、ピンとこなくても井深大と盛田昭夫と聞けば「あ、ソニーだ」と分かります。日本初のテープレコーダーやトランジスタラジオを製造・販売し、世界的なブランドイメージは、トップクラスです。特にVAIO、ウォークマン、プレイステーションなどのブランドは有名ですね。

さて設立時の趣意書に

真面目ナル技術者ノ技能ヲ最高度ニ發揮セシムベキ
自由豁達ニシテ愉快ナル理想工場ノ建設

と、あります。

ソニーのイメージは、斬新なアイデアと物怖じしない強気な商法なのですが、趣意書の「自由闊達で愉快」の言葉で納得できる気がします。

井深氏の著作には、教育や福祉関連が多く見られること、盛田氏の著作に「[NO]と言える日本」があることなどから、創業者二人の長所を垣間見ることが出来ます。それぞれのよさを存分に発揮できたことで、会社が大きくなったのですね。

1958年 社名をSONYに変更しました。音『SONIC』の語源となったラテン語の『SONUS（ソヌス）』と小さいとか坊やという意味の『SONNY』から来ており、簡単に、どこの国の言葉でも同じように発音できることで考案されたそうです。

やっぱり、おっちゃんの年代はSONYといえば、ウォークマンなのですね・・・PSではない・・・。今は日本企業、特に電気製品やコンピュータ関連商品が苦戦を強いられているようですが、世界を愉かにさせるような商品を開発して欲しいですね。

5月8日 世界赤十字デー

1948年にストックホルムで開催された第20回赤十字社連盟理事会で決められました。5月8日が赤十字社の創設者、アンリ・デュナンの誕生日であることに因みます。

1863年に「国際負傷軍人救護常置委員会」が発足し、赤十字標章等を定めた赤十字規約が定められました。

そして翌64年 スイスなど16カ国が参加してジュネーブ条約が採択されたことで、「国の内外を問わず、戦争や大規模な事故や災害の際に敵味方の区別なく、中立機関として人道的支援を行う団体」と認められました。アンリ・デュナンは、「クリミアの天使」と呼ばれ、敵味方の区別なく負傷兵を看護したナイチンゲールの活動を高く評価しています。しかし、ナイチンゲールは赤十字の活動には関わっていません。

ナイチンゲールは、「構成員の自己犠牲のみに頼る援助活動は決して長続きしない」と赤十字のボランティア活動を危惧していたと言います。

また日本では1877年に日本赤十字社の前身「博愛社」が結成されました。（1886年ジュネーブ条約に加入、翌87年「日本赤十字社」に改称しました）

1887年には赤十字篤志看護婦人会が創設され、ボランティア活動が行われるようになりました。皇族、華族、上流婦人を中心とし、活動は傷病者の介抱ができるように包帯の巻き方や救急法を習うなど、赤十字活動の中心となる救護看護婦の役目を果たそうというものでした。大山捨松や新島八重なども、この赤十字の活動に尽力しています。

その2年後には、日本赤十字病院に一般婦女子を対象にした救護員養成所ができ、日本における看護師の歴史が始まりました。

日本赤十字社といえば、東日本大震災の際にも多くの義捐金を集めました。寄せられた義援金は、義援金配分委員会により、各機関で受付けた義援金をとりまとめて、配分基準が作成され、被災者への配分が決まるのだとその仕組みを始めて知ったのでした。

海外の災害や紛争に対しても、現地での救援活動や復興支援活動等に使われる「救援金」と言うのを集めるのだそうです。

赤十字のマークをつけていけば狙われることがないという取り決めですが、実際の戦場ではそうはいかないようですし、中立が原則であるにもかかわらず、軍用資材が運ばれたこともあったと言います。

しかし、人々が命の大切さを認識し、いかなる状況でも中立の立場で救済にあたるという取り決めをしたことは、すばらしいことと言えるでしょう。国境や民族で対立することのないよう、経済問題や領土問題で紛争が起こらないよう、心から願うばかりです。

5月9日 1876年 明治天皇の行幸で上野公園の開園式が行われ、日本初の公園に指定されました。

三代将軍・徳川家光は、江戸城の丑寅、すなわち鬼門を封じるために上野の山に東叡山寛永寺を建てました。寛永寺は芝の増上寺と並ぶ将軍家の墓所として権勢を誇りました。

幕末の戊辰戦争では旧幕府軍の彰義隊が寛永寺に立てこもり、新政府軍によって包囲殲滅されたため寛永寺の伽藍は焼失し上野山一帯は焼け野原となりました。

維新後の1870年、ここを医学校と病院にしようとしたのですが、視察にきたオランダ人医師ボードウィンが公園として残すよう日本政府に働きかけたことにより、芝、浅草、深川、飛鳥山と共に日本で初めて公園に指定されました。

当初は寛永寺社殿と霊廟、東照宮それに境内のサクラを中心にした公園でしたが、後に博物館、動物園、美術館などが建てられています。他にも西郷隆盛像や不忍池などが有名ですね。内国勸業博覧会も何回か開催されています。文化・芸術の施設が集まった都市型の公園です。

1924年には 宮内省から東京市に払い下げられたので「上野恩賜公園」という名前になりました。1989年には日本公園緑地協会により都市公園100選に選ばれています。

国立博物館、西洋美術館、科学博物館、動物園など、一度は行ってみたいものです。何日も時間をかけて観覧したら面白いでしょうね。

5月10日 1886年 「教科書用図書検定条例」が公布されました。

翌87年には「教科用図書検定規則」が定められました。

明治の初め、先生たちは指定された教科書以外の本で授業することは、珍しいことではなかったようです。教科書の選定も各都道府県や学校に任せられていました。

しかし、国民教育の方針に適合しないものや児童に適切でない内容の教科書があるということで、調査の結果、不適当と認めた教科書の使用を禁止しました。

使いたい教科書があれば、都道府県や学校が、それぞれ文部省に審査してもらうことになりましたが、手間も時間もかかるということで、検定に合格したものを使うやり方になりました。

この時点では教科書の検定は教科用として弊害のないことを証明するもので、内容上の優劣は問わないことになっていました。森有礼は、教育は開明された国民によって自発的に改良進歩されるべきものと考えており、改善の効果があがったときには、検定制度廃止を考えていたそうです。

ところが 1902 年教科書会社と文部省、都道府県の担当者、学校長などが賄賂で癒着していることが発覚した「教科書疑獄事件」が起こり、国定教科書制度が導入されました。中央集権化が進み、国家統制の時代になっていきます。

国定教科書は 戦後 1947 年まで使われました。

教科書図書の検定は、その内容が学習指導要領に準拠しているかどうか、構成、印刷、ページ数、用紙、定価等が適当かどうかを調査するものです。仮に検定で合格しなくても、一般の書籍として販売することは出来るので、日本国憲法第 21 条の検閲の禁止には反しないのだそうです。

歴史教科書に関しては、いろいろ問題があります。歴史に限らず、教科書を過信し、妄信することは危険ですが、当たり障りのない内容ばかりでも困ります。どんな子供でも「祖国愛」がもてる教育を目指して欲しいものです。「祖国愛」は藤原正彦氏の受け売りです～～

5 月 11 日 1912 年逸見次郎が竹製計算尺の特許を取得しました。

計算尺。中学生のときに数時間授業があった気がするけれど、その存在すら忘れていました。計算尺は、掛け算・割り算だけでなく、三角関数の計算や、指数・対数の計算ができます。

1970 年代頃まで理工学系の設計で欠かせない物でしたが、関数電卓の登場で 1980 年頃には多くのメーカーで生産が中止されています。若い人はみたこともないでしょうね。

特許を取得した逸見次郎(Hemmi Jiro/1878 - 1953)は、その後 1928 年に逸見製作所を設立しました。それが現在のヘンミ計算尺株式会社です。商標「SUN」は計算尺の世界ブランドになりました。

竹製計算尺は、もう生産されていないそうですが、「体重バランス計算尺」とか「ダクト計算尺」など特殊な計算が出来る計算尺の開発や製造をしているようです。

なるほど・・・ちょっとした早見表のような使い方が出来るというわけですね。

そもそも計算尺は、航海に必要な星の動きを計算するのに、便利なものはないかと考えられたのが始まりだそうです。そこから発見されたのが「対数」、1614 年-スコットランドのジョン・ネイピアによるものです。1632 年にはウィリアム・オートレッドが計算尺を発明しました。

日本には、1894 年にフランスのマンハイム式の計算尺が入ってきました。その後、湿度や気温による伸縮のない竹を使ったオリジナルの計算尺の開発に成功したのが逸見次郎でした。

日本では、そろばんが普及していたので、計算尺の使用頻度は低かったのですが、欧米では日本製が精度がよいと非常に好評で、一時は世界シェアの 8 割にも及んだそうです。

計算と言えば、スーパーコンピュータ「京」ですね。2011 年 11 月に世界 1 位になって以降首位を譲っていますが、次は 1 位を奪還すべきと 1110 億円の開発費を投入するのだそうです。事業仕分けの対象になりましたが、やっぱり一番でない・・・・

5 月 12 日 海上保安の日

海上保安庁が1948年に「海上保安庁開庁記念日」として制定したのが、2000年に「海上保安の日」に改称されました。1948年のこの日に海上保安庁が開庁したことにちなみます。

海上保安庁は国土交通省の外局で、海上の安全および治安の確保を図ることを任務とします。諸外国では沿岸警備隊にあたる準軍事組織とみなされることが多いようです。

海上自衛隊とどう違うの？って感じですが、諸外国の軍艦への対応は海上自衛隊が担当し、非軍事の公船や民間船舶への対応は海上保安庁が担当するらしいです。

沖縄県・尖閣諸島周辺の領海外側にある接続水域で、中国の海洋監視船3隻を海上保安庁の巡視船が確認・・・なんてニュースも日常茶飯事な感がありますが、こういう場合でも出動するのは、海保。自衛隊ではないのですね。

敗戦により非軍事化した日本は、海上の治安維持が出来なくなりました。そのため密貿易や不法入国が横行しGHQも苦慮する事態となりました。

そこで1946年に運輸省の管轄で不法入国船舶監視本部が設置されました。また1948年には運輸省の外局として、海上保安庁が設置され、全国の9箇所に海上保安本部が置かれたのです。

1952年に海上保安庁内に設置された海上警備隊が、後に独立して海上自衛隊になります。

島国である日本においては、やはり海上の治安維持は必要不可欠なものです。海保の主な仕事は、海に関わる犯罪捜査、警備などの海の公安と領海警備、海難事故の救助、海洋情報の調査・発信、海上交通の安全保持と管理などです。

普段の生活では、あまりお世話になることがないだけに、どんな活動しているのか気になりますが、TVドラマや映画で見た「海猿」は、かっこよかったですね。

5月13日 メイストームデー

こんな記念日は、初めて聞きました。そもそもメイストーム (May Storm) は、1954年、発達した低気圧で船舶の遭難が多数起こったことがあり、それをメイストームと名づけました。

それが八十八夜頃、起こる五月の暴風雨の名前になっています。それにちなんで、バレンタインデーから八十八夜に起こる恋愛の暴風雨、つまり別れ話を持ち出してよい日らしいです。

また、八十八夜と言えば、霜が降りなくなる頃で八十八夜の別れ霜とも言われ、そこから別れる、の意味合いからきているようです。

チョコレートをあげたり、お返しをしたり、オレンジを食べたり・・・いろいろ忙しいことです。

メイストームデーでは、どこの業界が儲かるのか、誰が考えたことなのか、ちょっと調べ切れませんでした・・・。別れ話なんて、ショックなことになったら、大判焼きでも食べて、元気を出してもらえないですか・・・。

5月14日 1874年ハーバード大学にて世界初のアメリカンフットボールの試合が行われました。

それより4年前1870年には「ニュージーランドでは初となるラグビー試合が行われる」とあります。そこでラグビーとアメリカンフットボールの違いと共通点は？と考えてみました。卵形のボール、タックルするところ・・・似ています。H型のゴールポストを使用していれば、なんとなくそれも似ていますよね。でも、詳しい人にとっては「MACとwindowsの違いは何？」とたずねるようなものなのだから。

そもそも装備が違うので、違いは一目瞭然なんだけど。

英語では、「Rugby Football」と「American Football」 ついでにサッカーは「Association Football」 Football家の3兄弟みたいな名前のこれらのスポーツは、そもそも同じボールゲームから独自に発展したものでした。

初期のフットボールはルールが混沌としており、学校ごとに自由にルールを決めて試合が行われていたので、対外試合は大変でした。

1841年イギリスのラグビー校で、フットボールのボールを持って走る行為が容認されたことが、ラグビーの起源です。また手を使うことを禁止したルールのグループがサッカーに発展していきました。

1800年代後半に、アメリカに伝わったラグビーが独自に進化したのがアメリカンフットボールの起源です。日本では、アメラグ（アメリカンラグビー）と呼ばれた時代もあります。

アメフトは1885年にはプロによるゲームが行われています。アメリカで一番人気なスポーツはアメフトで、NFL王座決定戦であるスーパーボウルは、アメリカ最大のスポーツイベントです。それゆえに、プロスポーツとしてのノウハウは、ラグビーより断然進んでいると言えます。

違いを探しても面白い、似ているところを探しても面白い、独自の進化を遂げた3つのスポーツは、緑の芝の上を駆け巡り、ゴールしながら決められた時間内に、より多くの得点を競い合うという原則だけは同じように継承されているのですね。

5月15日 1966年テレビ番組『笑点』の放送が始まりました。

日曜日の夕方に放送している、日本で3番目の長寿番組です。最近の番組構成は、前半が演芸、後半が大喜利になっていますね。

「笑点」の名前の由来は、当時流行していた三浦綾子の小説「氷点」をもじったとか、サントリーのPR誌に掲載されていた「笑点」を気に入った立川談志が、使用許可を求めたとか。笑いのポイントという意味のある「笑点」は番組関係者みんなが気に入った名前だったようです。

それぞれに際立ったキャラクターをもち、愉快的ネタを披露する大喜利は、楽しいですね。でも46年も続いていると、残念ながらすでに亡くなってしまった出演者もいます。初代司会者の立川談志、前田武彦、三波伸介、5代目三遊亭圓楽、三遊亭小圓遊。

名前を聞くだけで、懐かしい。

お互いにいじりあったり、ライバル対決をしたり、ちょっとキツイジョークを言い合ったりすることもあります。メンバーの仲がよいから出来る、いわばチームワークのようにも思えます。そういうところが、長寿番組の秘訣かもしれませんね。

ところで大喜利って、どんな意味なんでしょう。

寄席の言葉でトリを落語や講談が取らないときに、数人でお題に対して謎掛けや小咄をすることで、キリは「ピンキリ」のキリで「最後」の意味です。歌舞伎では「大切り」ですが、切は縁起が悪いので、客も喜び演者も利を得るという当て字で大喜利となっています。

5月16日 旅の日

松尾芭蕉が奥の細道に旅立った5月16日（陰暦元禄2年3月27日）にちなんで、1988年に「日本旅のペンクラブ」（旅ペン）が制定しました。

「日本旅のペンクラブ」は1962年に設立され、旅文化の向上や自然環境保護、地域活性化などの活動をしています。会員はジャーナリスト、作家、歌人、写真家、画家、建築家、大学教授など様々、旅館・民宿・飲食店の主人などの会友で成り立っています。

当初からの申し送りで、会長は西行、副会長は松尾芭蕉と決まっているのだそうです。そう考えれば、古来から日本には紀行文が、たくさんありますね。四季がはっきりしていること、山も海も、それに温泉もあること、何より自然を愛でる感性のある国民性であること……。

ところで芭蕉は、この時期に江戸を出発し、初夏の気配から、梅雨 うだる暑さの夏、秋には 大垣に到着します。そこで「おくのほそ道」は一応の終結を迎えています。

人生で言えば、青春から成人し初老になっていくような旅程でしょうか。春に始まって秋に終わると言うのも、意味深い気がします。

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」

旅をしても、ひとところに留まっても、人の人生は旅。だからこそ、一期一会を大切にしなければならないのですね。もちろん、ブラウンを買ってくださるお客様とは、なが〜いお付き合いをしたいと思っています。

5月17日 1875年 屯田兵が北海道に入植を始めました。

北海道の警護と開拓を目的とし、東北地方の士族によって編成された198戸、965人が入植しました。

屯田兵には、移住旅費、家具、農具、兵屋が用意されました。ほかにも移住後3年間は米、塩菜料が支給されましたが、じゃがいもや雑穀を常食とする人も多かったので、「いも屯田」と呼ばれました。

明治になって、職を失った士族を活用して北海道の開拓と警護に当てることは、榎本武明、西郷隆盛、それに坂本龍馬も、提言していたのだそうです。

開国して樺太や北海道の兵備の必要性が高まりましたが、当時の財政状況はそんな余裕がなかったのですね。最初は士族による編成でしたが、その後は平民の志願も受け入れるようになりました。

屯田兵は、西南戦争や日清、日露戦争にも参加しています。屯田兵の下士兵には東北諸藩の士族出身が多かったのも、戊辰戦争の敵だった鹿児島県士族を相手とする西南戦争に奮い立ったと言います。

そう言えば「八重の桜」に登場する人物も、後に北海道に移住する人がいるようです。どのように描かれるのでしょうか。楽しみです。

屯田兵によって計画的に開拓された北海道は、アメリカのような大規模農業に適した整然とした区画整理ができています。それは農地だけではなくて都市部の広い道路や整然とした住宅部などに及んでいます。

冬寒く、荒野を開拓した屯田兵……多くの苦労があったことですが、現代に至る生活の礎を築いた屯田兵は今でも尊敬される存在なのだそうです。

屯田兵の募集は1900年、終了します。そして現役兵がいなくなった04年には、屯田兵条例も廃止されました。屯田兵の移住総数は37兵村で、計7337戸3万9911人にのぼりました。

5月18日 1867年南方熊楠（みなかたくまぐす）が生まれました。

和歌山市に生まれた、日本の博物学者、生物学者（特に菌類学）、民俗学者です。彼については、業績はもちろん、その天才ぶりや奇行が有名かもしれませんね。

金物屋に生まれ、幼い頃は体が弱かったと言われていますが、家にあった鍋釜を包む反古紙に書いてある文字をむさぼるように読んでいました。そして、小学校に入ったときには近所の人から『和漢三才図会』105巻を借りて読み、読んだ内容を家に帰ってから筆写できたそうです。

東京の大学予備門に入り、同窓生には夏目漱石、正岡子規、秋山真之などがある、「坂の上の雲」の時代です。しかし、熊楠は学業そっちのけで遺跡発掘や菌類の標本採集などに明け暮れました。

アメリカ、キューバ、イギリスと遊学しています。日本に留学中の孫文や柳田国男とも交友がありました。

一度読んだものは忘れることがないようで、「歩く百科事典」といわれたそうです。学術書ばかりでなく家系図や履歴書なども同様に、抜群な記憶力を証明するいろいろなエピソードが残っています。

読んだら忘れないから、外国語の習得も得意で19の言語が理解できたそうです。語学習得の極意は「対訳本に目を通す、それから酒場に出向き周囲の会話から繰り返し出てくる言葉を覚える」だったとか……。酒豪だったようですし。

熊楠の名言として残されているものの中に、「肩書きがなくは、己れが何なのかもわからんような阿呆共の間になることはない」と言うのがあります。生涯、定職につくことがなかった熊楠には、肩書きらしいものはありませんでしたが、昭和天皇に進講するほどでしたから、すごい人だったようですし、この名言も納得できますね。

昭和天皇に進講したとき、参考にと献上した粘菌標本をキャラメル箱に入れていたと言うのは有名な話です。大切なのは標本そのものであって入れ物ではない……。確かにそうです。

「神童」と言えば南方熊楠の名前をあげる人が少なくないです。またサヴァン症候群との関連を指摘する人もいます。好きな研究に没頭していなければ、癩癩が起こってしまうのだそうです。

天才であったがゆえに、人間関係や金儲けなど処世術をもたなかったようですが、それでも、偉業を成し遂げ後世に名を残すことが出来たのは、当時のおおらかさがあったからかもしれないと思うのです。

5月19日 ボクシングの日

2010年日本プロボクシング協会が制定しました。1952年白井義男が世界フライ級で日本初のボクシングチャンピオンとなったことに因みます。

白井義男は戦時中の1943年にプロボクサーとしてデビューしましたが、招集され特攻機の整備士をしていました。そのとき腰を痛め、ボクサーとしての再起はあきらめていましたが、GHQ職員のアルビン・R・カーンによってボクシングを続けることが出来ました。

カーンの指導の下、栄養のある食事と健康管理を徹底し、防衛主体のスタイルで当時の世界チャンピオン、ダド・マリノ（アメリカ）とのタイトルマッチに勝利しました。

敗戦後の日本に、大きな希望を与えた出来事でした。

白井は後進の指導にも尽力しましたが「ボクシングをしていてよかったといえるためには、打たれちゃいけないってこと。避けて打つ、打って避ける。こういうボクシングをしなきゃ、将来、後悔することにもなりかねない」と言っています。

ボクシングは古代より行われていた記録がありますが、それはまさに命がけの決闘ともいえるものでした。激しいスポーツですから、今でも危ないとかヤンキーが喧嘩の代わりにやっているなんて感じがあります。激しく打ち合うイメージばかりが先行してしまいます。

そもそもスポーツとしてのアマチュアボクシングはヘッドギアを装着するなど、徹底した健康管理に努め徹底した安全を目指しています。白井さんの言葉どおり、うまくディフェンスすることと、うまくパンチを当てること、そのメリハリとスピード感、緊張感が勝負の妙なのですね。

格闘技もいろいろありますが、それぞれ見所が違います。ボクシングはいかに上手にパンチをかわすかに注目しながらスピード感を楽しむものようです。

5月20日 ローマ字の日

公益財団法人日本のローマ字社が1955年に制定しました。ローマ字国字論を展開した田中館愛橋（たなかだてあいきつ）の1952年5月21日の命日にちなみ、きりのいい20日を記念日としています。

田中館愛橋は国語学者ではなく物理学者で、1885年に理学協会雑誌に「羅馬字用法意見」を発表したのが、日本式ローマ字の基となったと言われています。

ローマ字は、16世紀にキリスト教の布教にあたったイエズス会が、ポルトガル語に準じたローマ字で日本語を表記したのが始まりです。江戸時代にはオランダ式、その後ヘボン式が使われましたが、日本語の表記としては、あまり適切ではなかったようです。

田中館愛橋が日本式を考案しましたが、1937年には内閣訓令として訓令式ローマ字が公布されました。現在でも、訓令式かヘボン式かで表記は分かれていますね。

明治の始めには、前島密や森有礼らによって日本語をローマ字で表記すべきというローマ字国字論が起こりました。戦後には、GHQによって、日本語は漢字が多くて習得に困難で、そのために民主化が遅れていると言われたことがありましたが、実際に識字率の調査をしてみると、高い識字率を証明することが出来たので、ローマ字化することはありませんでした。ローマ字の利点は、外国人にも読むことが出来ること、またコンピュータで扱うのが容易なこと。文字は、ローマ字入力を使っている人も少なくないことでしょう。また難欠点としては、読みにくいこと、縦書きがしにくいことなどがあげられます。

漢字を廃止してローマ字にしてしまうと、同音異義語の区別ができなくなり、表現の乏しい幼稚な言葉になってしまう可能性があります。漢字は難しく、勉強が大変ですが、それゆえに日本語は豊かでいろいろな表現が可能です。

日本語の語彙の多さは、表音文字だけ使う言語と比較にならないと思います。この微妙なニュアンスの違う言葉を使いこなすことが、日本人の豊かな情緒を育てていると思います。大切なことですね。

5月21日 1927年チャールズ・リンドバーグが大西洋単独無着陸飛行に成功しました。

前日の午前7時52分、「スピリット・オブ・セントルイス」と名づけた飛行機でニューヨークを出発し、21日の午後、パリのル・ブルジェ空港に到着しました。

飛行距離は約5800km、33時間30分を要しました。これによって、リンドバーグは「オルティエグ賞」を受賞し、25,000ドルの賞金を獲得しました。この賞は、ニューヨークでホテルを経営していたレイモンド・オルティエグによって提供され、ニューヨーク・パリ間を無着陸で飛ぶことが出来た最初の連合国の飛行士に賞を贈るものでした。

1919年の5月に設けられた賞で、何人もの飛行士がこの試みに挑戦しましたが、なかなか成功する者が現れませんでした。今では考えられないことですが、離陸に失敗したとか、試験飛行中に事故を起こしたとか、途中で海に墜落したなどの理由で、多くの飛行士が命を落としています。航空技術が乏しかったのが原因ですが、逆に飛躍的に技術が進歩した時代でもあったのです。

リンドバーグは大学を中退した後、小型飛行機で曲芸飛行をしてお金を稼ぎ、アメリカ陸軍航空隊に入隊して飛行士としての技術を学びました。その後セントルイスの航空郵便会社に就職し、郵便機のパイロットになっています。

オルティエグ賞に挑戦するためには、15,000ドルほどの資金が必要でした。彼はセントルイスの実業家に飛行機の操縦を教えており、その人たちに資金援助をお願いして資金を調達したそうです。「スピリット・オブ・セントルイス」の購入にはおよそ10,000ドルかかったようです。

さてリンドバーグと言えば、このときの冒険を自伝“*The Spirit of St. Louis*”に残していますが、その日本語訳のタイトルが「翼よ！あれが巴里の灯だ」です。

感動的なせりふですが、実際にリンドバーグが言った言葉ではないようで、彼自身はパリにちゃんと到着したのか、半信半疑だったそうです。一説には、最初に発した言葉は「トイレはどこですか？」だったとか・・・

リンドバーグは、人工心臓の研究に関わったり、環境保護活動に尽力したりしています。また第二次世界大戦の様子を記した日記が出版されています。ただの命知らずの冒険野郎ではないところがいいですね。

5月22日 サイクリングの日

2009年日本サイクリング協会が制定しました。1964年5月22日、文部大臣からサイクリングの普及推進を目的とする公益事業を行う財団法人として認可されたことにちなみます。

サイクリングの歴史をたどれば、1870年代後半にイギリスでサイクリングの同好会が出来たのが最初で、日本では1886年に結成された「自転車会」が最初ようです。

1870年ごろの自転車はペニー・ファージング型、前輪がやたら大きくて、しかも前輪にペダルがついているのですね。この自転車は大流行しクロスカントリーやレースといったスポーツにも大いに利用されたようです。1880年頃が最盛期で、その後はセーフティー型と呼ばれる、現代式の自転車に変わっていきました。

日本では2回のサイクリングブームがあったようです。1950年頃と1980年頃です。自転車は野外での健康的なスポーツとして国が推奨しました。1957年には「青春サイクリング」という歌が流行しました。

サイクリング サイクリング ヤッホー ヤッホー という歌詞、どこかで聴いたことがあるかもしれません。

自転車といえば自動車の渋滞を避けて通勤に利用している人もおられるかもしれません。環境にもやさしくて、健康的、経済的 1石3鳥 にも4鳥にもなります。

サイクリングの効能を調べてみれば、

脳内神経伝達物質の一つであるセロトニンが増加して気分爽快になること腸腰筋（ちょうようきん）が鍛えられて寝たきりが防止できること有酸素運動としてダイエットに効果的なこと。海馬から新しいニューロンの成長が始まり、脳が活性化すること

高血圧に効果的であったり、体脂肪率を下げるのに役立ったりするようです。景色を楽しみながら、風を切って走るのは気分転換にもなるでしょう。ツーリング用の自転車は、結構高価なものですが、ママチャリでも、それなりに効果は期待できそうです。

5月23日 1903年 サトウハチローが生まれました。

父親は作家の佐藤紅緑ですが、両親の不仲や父親に対する反抗から少年時代より手に負えない不良であったようです。中学を退学した後、父島の感化院で過ごします。その時に童謡を作り始め、稀代の才能が開花しました。「ちいさい秋みつけた」は、知らない人がいないぐらい有名な曲ですが、その作詞がサトウハチローです。

他にも多くの童謡を作詞しており、歌謡曲は「リンゴの歌」「長崎の鐘」、校歌の作詩も多く手がけていますし、少年少女小説やユーモア小説もたくさん書いています。

おかあさんに関して最もたくさん詩を書いた詩人と言われており、母親に対する思慕の情を多くの詩に綴っています。少年時代に素直に表現できなかった母親に対する思いが込められているのかもしれませんが。異母妹の佐藤愛子はハチローが実母に対して愛情らしいものを示したことがなかったと証言しています。

また、弟を広島の原爆で亡くしており、弟を探して広島の町を捜索したことが「長崎の鐘」の作詞にも影響しているかも知れません。「長崎の鐘」の詩の中に つぶやく雨、たたえる風、ほほ笑む海という件があります。

なんという表現でしょう！ 頭では理解できない言葉ですが、心では理解できる気がします。

戦後すぐの大ヒットとなった「リンゴの歌」でも、赤いリンゴと青い空といきなり強烈な色のイメージでひきつけて、リンゴかわいや、かわいやリンゴと語呂よく締めています。曲も素敵ですが、歌詞もすごい！

こうした、言葉や感性を大切にした日本語のよさを、もっと学びたいものです。

5月24日 1830年サラ・ジョセファ・ヘイルの詩『メリーさんのひつじ』が発刊されました。

今日も詩に関する話題です

ね。「メリーさんの羊」の歌と言えば・・・確か、

メリーは白くてかわいを飼っていて彼女の行くところ、どこでもついて来ます。あるとき学校へついて来てしまいました。生徒は大笑いし、先生はかんかんに怒ってそれでメリーは悲しくなって泣いてしまいました。

このよく知られた日本語訳は 高田 三九三によるものです。

あまり好きな歌でもなかったのですが、原文はとても、かわいらしいものでした。

学校についてきた子羊に、生徒は大騒ぎし先生は外に出そうと追い掛け回すのですが羊はメリーの近くを離れようとしません。そして、じっとメリーを待っているのです。

すると生徒が尋ねます。

「先生、羊はどうしてあんなにメリーが好きなの」先生は答えます。

「だって、メリーが羊のことを大好きだからよ」と

この「メリーさんの羊」はアメリカの詩で作者もはっきりしていて、マザーグースのひとつに収録されています。欧米では誰でも知っている歌ですね。

原文に対して高田三九三の訳は、どうしてこんな訳になったのか疑問ですね。

笑って、怒って、泣いて と言うのが面白かったのでしょうか。

戦争中の訳だったので学校に羊なんか連れて行ってはいけませんということ？

羊がメリーを好きなのは、メリーが羊を好きだから・・・その方が、ずっと素敵なのに。

5月25日 1955年 岩波書店から「広辞苑」が出版されました。

1935年に、博文館から国語辞典と百科事典をかねた家庭向きの辞書を「辞苑」として発行したのが始まりで、その後岩波書店から「広辞苑」として1955年出版されました。

編集を手がけたのは新村出（しんむらいずる）で、第6版になった今でも、広辞苑には、新村出の名前が記されています。新村が亡くなったのは1967年で第2版が出版される以前の事です。1955年当時は、旧漢字から新漢字に移行し、また仮名遣いも変わっており、「辞苑」編纂時と変わらない苦労があったようです。新村新仮名遣いに反対の立場をとっていましたので、広辞苑の前文は、旧仮名遣いでも新仮名遣いでも大丈夫な内容にしたのだそうです。

国語辞典はたくさんありますが、広辞苑と言えば日本語の規範となるものでしょう。新聞社や放送局でも、分からないところや不明瞭なところは「新村さんに聞け（広辞苑を調べなさい）」と言うのだそうです。

現在は第6版が2008年に出版されており、24万語が収録されているそうです。そして出版部数は37万部。CD-ROM版もあるので、より使いやすくなっています。

言葉は生き物といわれ、刻々と使われ方や意味あいが変わってきています。平安時代には、趣がある意味だった「おかし」も、現代では「滑稽」という意味で使うように、ただ間違いと言うのではなく、変化していくのですね。

しかし、24万語と言うのは、すごい数です。豊かな日本語を正しく使えるように、よく勉強したいものですね。素敵な日本語を誇りに思いながら・・・

5月26日 1923年 第1回ル・マン24時間レースが開催されました。

自動車による耐久レースで、フランスのル・マン近郊で開催されます。「モナコグランプリ」、「インディ500」と並び自動車の三大レースのひとつです。

歴史のあるレースなので、世界中の耐久レースに大きな影響を与えており、自動車の耐久レースといえば、「デイトナ24時間レース」、「スパ・フランコルシャン24時間レース」とともに世界三大耐久レースです。

かつて「ル・マン式スタート」と呼ばれた方式は、ドライバーが車両の反対側からコースを渡って乗車しスタートする方式でしたが、シートベルトの着用を徹底するためと、スタート時の事故を防止するために、1970年には廃止されています。そういえば、そのようなスタートを映画か何かで見たことがあります。

自動車レースは1887年にフランスで行われた2kmの走行が最初だと言われています。その後、記録に残っているものとしては1894年に開催されたパリ - ルーアンレースです。当時の自動車は、馬車の馬がエンジンに替わったような形をしており、今のレースとは、相当違ってきますね。

ル・マン24時間レースで活躍した日本人レーサーと言えば、1995年総合優勝の関谷正徳氏、2004年総合優勝の荒聖治氏、最多出場の寺田陽次郎氏などがいます。日本のチームや日本車も大いに活躍するレースです。

5月27日 海軍記念日

1905年の東郷平八郎率いる日本海軍の連合艦隊が、ロシアのバルチック艦隊を破った日本海海戦を記念して制定されましたが、戦後廃止されました。

現在、海上自衛隊ではこの日前後に基地祭などのイベントを催すところがあるようです。また金刀比羅宮では掃海殉職者慰霊祭が行われます。金刀比羅宮にお参りしたことのある人は大勢おられるでしょうが、記念碑を記憶されている人は少ないのでは？

太平洋戦争時、瀬戸内海や日本近海には67,000個以上の機雷が敷設され、日本周辺の航路、水路がふさがれ非常に危険な状況にありました。終戦後この機雷の除去作業が行われましたが、作業中に触雷事故がおこり79名もの犠牲者が出ました。

機雷は国際法によると敷設した国の責任で除去作業が行われることになっています。ところが、この機雷を日本で掃海させられました。それを隠蔽するために79名の犠牲者は公に葬られることはありませんでした。(主語、あえて抜いています) このときの犠牲者が掃海殉職者と言うわけです。

この記念碑の揮毫は吉田茂によるものですが、彼の心中いかななものだったのでしょうか。

5月28日 1960年トキが国際保護鳥に指定されました。

トキは江戸時代までは、どこにでもいる鳥で、スズメやサギと同じように決して珍しい鳥でなく田畑を踏み荒らす害鳥でした。冷え性や産後の滋養強壮に食べられたり、美しいピンク色の羽毛を取られたりするために、明治時代になってからは乱獲され、数がどんどん減っていきました。そして大正末ごろには絶滅したと思われていました。

ところが1930年～1933年にかけて佐渡島で目撃され、100羽程度が生息していると推測されました。1934年には天然記念物に、1952年には特別天然記念物に指定されています。

その後も自然開発や化学農薬などで、トキは減少し続けます。1981年には佐渡島に生息していた5羽すべてを捕獲して保護することになりました。しかし、人工飼育はあまりうまくいったとはいえないようです。

1999年には中国からトキが寄贈されましたが、2003年には日本のトキ「キン」が死亡したことで、日本の野生種は絶滅しました。中国のトキも遺伝子的には、日本のトキとほとんど同じなので、外来種ではないそうです。

中国にはトキがたくさんいるのかと思いましたが、中国でも1960年には消息が途絶えたようです。その後再発見され人工繁殖に成功しましたので、現在620羽が飼育され約1000羽が野生で生息しているそうです。

韓国のトキも1970年頃に消息が途絶え、現在は中国から寄贈されたトキによって人工繁殖し、19羽が飼育されています。同じく、ロシアのトキも1960年ごろに消息が途絶えています。

日本で現在飼育されているトキは180羽、でそのうちの107羽が放鳥されています(2012年秋現在)でも半数は死亡もしくは行方不明のようで確認ができないそうです。

ロシア、東アジアで、たくさん繁殖していたトキが、ここ100年ほどで絶滅に瀕したのは、環境破壊や農薬、乱獲だけでは解決できないのではないかと思います。子供の頃からトキに関してのニュースはよく見聞きしていました。しかし、あまり希望が持てないニュースが多かった気がします。現在ははずいぶん数がふえているのだと感じました。

トキにしろ、コウノトリにしろ、農業との共存は難しいようですが「トキの里のお米」(無農薬、自然保護)のイメージからプレミアムがつくそうです。価値観が昔とは違ってきているのですね。ところでほぼ絶滅したトキの飼育が、なぜ熱心におこなわれるのかと言えば、伊勢神宮の神宮式年遷宮が関係していると言われています。伊勢神宮は天皇が宮司を務める唯一の神社ですが、20年に一度、建物やその他装飾品などを全て新調し敷地内を移動する神宮式年遷宮という儀式があります。

この時に新調される神宝の一つに、須賀利御太刀(すがりのおんたち)があり、その柄にトキの羽を2枚使うと定められています。絶滅中国のトキと日本のトキは遺伝上全くの同一種ですが、1300年も続いている日本国の神聖な儀式に使われるトキの羽が中国産ではあまりに格好が付かないため、なんとしてでも「日本産トキ」を確保すべく運営されているのだとか・・・本当なのかしら？

5月29日 エベレスト登頂記念日

1953年 ニューゼalandのエドモンド・ヒラリーとシェルパ族のテンジン・ノルゲイが、世界で初めて世界最高峰のエベレストの登頂に成功しました。

エベレスト登頂といえば、先の23日 三浦雄一郎氏が世界最高齢での登頂に成功しました。日ごろから訓練を続けていたこともあるのですが、非常に強靱な身体と精神を持っているんですね。

ところで、エベレスト初登頂が、戦後になってからということに、いささか驚きました。南極や北極の探検が19世紀の始めにはすでに行われていたのに比べて、ずいぶん遅いと思ったからです。

なぜ遅かったのか理由を考えてみれば、最初に登頂を計画し遠征隊を送ったのはイギリスでしたが、他所の国の山に登るため、許可を得なければならなかったことと、登頂するためには酸素が必要だったことが考えられます。また、山に登るためには高度な技術も必要だったようです。ルートのひとつであるネパールは1949年まで鎖国をしていました。

1893年からイギリスは、数回にわたり登頂のためのルートを探したり、天候の調査を行ったりしました。2度の大戦で中断を余儀なくされました。最初に登頂したのはニュージーランド人ですが、イギリスの登頂隊に所属していました。

ところで、エベレストというのは、1865年に英国のインド測量局長官の名前にちなんで命名されたものだったので、本来はチベットの呼び名が「チョモランマ」、ネパールの呼び名は「サガルマータ」だそうです。

簡単に登れる山ではありませんが、登山料が1人25,000米ドル、最大の7人参加の場合は、割安になるのですが、それでも70,000米ドル、1人あたり10,000米ドルになります。金銭的にも体力的にも全く不可能なことです。

5月30日 1431年 ジャンヌ・ダルクが処刑されました。

百年戦争とかランカスター朝なんてことは、すっかり忘れていますが、兵士たちを鼓舞してオルレアンを解放しシャルル7世を戴冠させた聖女。そしてイギリス軍に捕らえられ火刑に処せられた・・・程度は覚えています。

神様の声を聞き、身分も高くないのに男装し率先して戦場に出かけていくと言うのが不思議ですね。フランスでは英雄でカトリックの聖人とされています。

二十歳にも満たない若い女性を戦場に連れ出したのは、神の声？それとも他に何か企てがあったのでは？研究している人は多いようですが未だ謎に包まれた人物のようです。

ところで「ジャンヌ・ダルク」は、若い女性ながらに勇敢だったり、何か先陣を切ってやり遂げたり、活路を開いたりする人のことを例えるときに使います。

「幕末のジャンヌ・ダルク」のキャッチフレーズで人気を集めているのが、会津藩の新島八重です。鶴ヶ城に立て籠もり銃を持って勇敢に戦った姿を称えてそのように呼ぶのでしょうか。カッコイイようにも聞こえますが、生死をかけた戦場でのこと、とんでもないことですね。

巴御前をはじめ女性ながらに戦場で活躍したと言われる人は世界各地に存在しています。敏捷な運動神経とリーダーシップがあれば兵士の先頭に立って活躍できるでしょう。有事に開き直った女性は驚くほど強いものです。侮ってはいけません。

5月31日 1941年内務省が「迷信暦」の発売を禁止しました。

「迷信暦」って、どんな暦かと思えば、大安・仏滅などのいわゆる六曜や、「九星」「十二直」「二十八宿」そのほか方位吉凶を載せた暦は擬暦だとして取り締まったのだそうです。

今でも、大安とか仏滅、友引などカレンダーや高島易断本暦で見かけますし、大安には結婚式が多いし、友引は斎場が休みです。「六曜」は昔からあるものかと思えば、江戸時代の終わりごろからと言うから、せいぜい150~60年のことなのですから。

大安も仏滅も何の根拠もないって分かっているけど、候補が2つあれば、縁起のよいほうの日にちを選びたくなります。「鰯の頭も信心から」と言うように、ジンクスを信じたり、星占いを欠かさずみていたり、何か、よりどころを求める人もいらっしゃるかもしれません。

「占いなんて信じない」と思っているけど、よくない卦が出れば気分はよくないものです。

1941年と言えば、日中戦争が長引き、この年の暮れには太平洋戦争に突入します。人々には先の見えない時代だったので、占いが大流行だったようです。

迷信だ、馬鹿馬鹿しいと言ってしまうえばそれまでですが、不安なとき、自信がないとき、「これなら大丈夫」と言ってくれる何かがあれば、頑張れるってことあるんじゃないでしょうか？それでも失敗したり、よくないことが起こったりするんですけどね。

新入社員の頃、失敗ばかりして勤めに出かけるのが憂鬱でたまりませんでした。そんな時、新聞に掲載されていたラッキーアイテムを身につけて何かあるたびに、それをさすっていました。効果があったかどうか分かりませんが、とにかく乗り切ることが出来たのです。ずいぶん昔のことですけど・・・

ところで、なぜ「高島暦」と言うのかといえば、江戸時代の終わりから明治の頃に高島嘉右衛門という、とてもよくあたる易断者がいました。その名前にあやかっただけです。実際には嘉右衛門とは何の関係もありません。